

	質問	回答者	回答
1	いしかわさん、大井さん、古谷さんに質問です。移動図書館に付加価値をつけることで行政を動かせることになるのかと聞きながら思いました。保健師や、高齢者を担当する場所との連携、子育ての部署との連携など検討されたことがあるか、今後の考えなどあったら教えてください。 今日はありがとうございました。	石川先生	ご質問、ありがとうございます！ 図書館単独による活動ではなく、他の部署や機関と連携しながら、地域社会の要望に基づきながら「移動」する活動を展開することは、今後展開していくと思われます。歴史を紐解きますと、おはなし(もしくは子ども図書館)のキャラバンでの展開などがありました。
		名古屋市大井様	担当部署に対して児童館やこども食堂、まちづくり事業との連携について提案し、試行的に実施しています。いずれの担当部署にも提案を好意的に受け止めてもらえ、事業実施のために協力いただいています。
		富岡町古谷様	巡回ステーションの策定は各施設(養護老人ホーム、児童施設、交流拠点等)の担当部署(住民課、福祉課、社会福祉協議会等)と連絡を取り合って進めました。催しや集会(体操教室、寄り合い・お茶会等)が定期的に開かれる巡回先については、主催者と連携して、それにあわせてスケジュールを組んでいるステーションもあります。以下は担当者の所感ですが、巡回と民間の移動販売が重なることもあり、こうしたところでも連携できたら活動の幅が広がりそうだなと思っています。
2	運転手派遣や車両維持管理を民間のタクシー会社、バス会社に委託すると直営よりはコスト減になりますか？	名古屋市大井様	直営でも様々な雇用条件があるため必ずコスト減になるとは言い切れませんが、当市では運転業務と巡回先の貸出業務、基地での予約処理等各種事務処理を一括で業務委託しています。
3	商業施設への巡回は利用者が多いが、本来想定していた本を届けたい図書館から遠い地域の利用がふるわない、との悩みをさいたことがあります。地域にも違いはあると思いますが、どのように周知・PRをしていくのがよいのでしょうか。	名古屋市大井様	定期巡回のPRは当市でも課題となっています。地域の役員に依頼して回覧板で周知して頂いたり、近隣の施設に掲示をお願いしたりしています。広報誌に日程を掲載していますが、シニア層には口コミや地域でのPRが有効と感じています。また、イベント出張時には定期巡回について積極的な周知に努めています。最近では若い層向けに移動図書館専用のSNSを開発しました。
		富岡町古谷様	当館でもPRが課題です。主な手段として、毎年度末に次年度の年間スケジュールを各所に掲出・配布し、毎月町広報誌に掲載しています。その他に、次のことを試しています。 団地の場合：自治会を通じて回覧してもらう、全戸にポスティングする 図書館情報紙の活用：季刊発行の情報紙で定期的に移動図書館の特集を組む(町広報に同封され、各戸に配布される) イベント出展：町主催行事等でスポット的に移動図書館活動を行う など
4	大井様 古谷様へ 巡回先で住民の方との巡回先で利用者とのふれあい、素晴らしいと思います。 そういった体験を職員さん間でどうやって共有されていますか？	名古屋市大井様	うれしい声をいただいたときは、ミーティングで市職員・スタッフ間で情報共有に努め、年1回の利用者アンケートの内容も共有しています。 昨年度開催したBookMobileサミットで各市の移動図書館の「ほっこりエピソード」を集めてパネル展示をしたのですが、どれも素敵なエピソードばかりでした。自館でも定期的に集めて展示するとよいかもしれないと思いました。
		富岡町古谷様	日誌をつけ、全図書館員と所属課の係長以上に回覧しています。日誌の内容は、車載資料を選定する際に参考にしたい情報(どのような資料が手に取られていたか、日常会話からわかった興味関心等)、活動に対するご意見(改善点はもちろんのことと美点についても)を積極的に共有しています。
5	大井さんに質問です。 名古屋市さんは電子図書館も大きく展開していると思いますが、図書館に來られない人へのサービスとして電子図書館を展開していると思います。自動車図書館も同様の活動だと思いますが、どちらも展開するのはとても予算がかかると思いますが、そのあたりはどのように考えていらっしゃいますか。	名古屋市大井様	電子書籍は文字拡大機能や読み上げ機能などバリアフリーの観点から有効なサービスであり、移動図書館は読書の楽しさや本のある場所の居心地の良さを体感していただき、地域のつながりが生まれる場所としての機能があります。重複するのではなく別の役割があり、両方重要であると説明しています。一方で、移動図書館のイベント出張時に電子書籍について説明すると、多くの方が驚かれ、その場で貸出券を作成される方も多数いるため、電子書籍のPRにとても、図書館に来ていない人が集まる場所へ行ける移動図書館はととても有効であると感じています。
6	石川先生にお聞きします。 テーマから逸れるのかもかもしれませんが、地方の自治体として移動図書館車を維持する理由として、他の機能、例えば、過疎地域などでの独居世帯の見守りというような役割を持たせると言ったような事例はありませんか。	石川先生	ご質問ありがとうございます！ 過疎地域では、図書個別配本をする中で、「結果的に」見守りになっている事例が複数ございます。他方で、移動販売車の事例においても、ご指摘の役割を果たしていることを考えますと、幅広い複数のアプローチの一つとして、図書館による選択肢があるという意味にならうと思います。
		名古屋市大井様	期間が長いとゆっくり読めて助かるという方がいらっしゃる一方、もっと頻繁に来てほしいというお声をいただくことも確かにあります。2台から4台への増車を機に、巡回回数を増やしていきたいと考えています。
7	大井様 古谷様 本の入替は1ヶ月から2ヶ月に1回なのですがもっと頻繁に来てほしいという声はありませんか？	富岡町古谷様	今のところ巡回頻度を増やしてほしいというご意見はありません。資料を次の巡回日まで貸出するので、ゆっくり利用できる点が好意的に受け取られている印象です。
		名古屋市大井様	1カ月で全ての本の入れ替えができるようにスケジュールを組んで意識的に入れ替えをするようにしています。分野によりますが、1回につき50～100冊程度です。
8	大井様 古谷様 本の入替はどれくらいの頻度で行っていますでしょうか。また、どの程度の冊数を一度に入れ替えていますでしょうか。	富岡町古谷様	移動図書館用の資料群はなく、館の蔵書を共用しています。車内架を4ブロックに分け、1ブロック/月1回入替しています(よって作業は月4回、原則毎週末に実施)。3か月間車載した資料を入替対象として抽出します。冊数は、1回の作業で60-100冊程度です。
		名古屋市大井様	市職員3名で車両4台分の選書や管理運営業務、イベント出張や学校訪問を担当しています。定期巡回は業務委託しており、1台につき2名の乗務員のほか、基地で電話受付や資料管理・利用登録・予約処理などを行うスタッフが2名勤務しています。
9	大井様、古谷様 移動図書館車1台あたりの選書・巡回には、スタッフ何名で行っていらっしゃるでしょうか？	富岡町古谷様	当館は1台で運用しています。巡回ルートは6コースあり、各コースに担当職員が1名付いています。巡回日は、原則2名が乗車します(コース担当者と運転担当者)。車載資料の選定は、コース別の需要にあわせたものはコースの担当者が行い、全コース共通の資料の入替(質問No.8の作業)は、全担当者で輪番制で行っています。
		名古屋市大井様	定期巡回では小説が最も多く、料理や家事、健康の本がよく利用されます。イベント出張は、イベントの内容に合わせて持参した本がよく利用されます。担当スタッフ数は質問9の回答のとおりです。 学校への出張として、事例報告で紹介させていただいた小学1年生の単元「はたらく車」にあわせた出張を今年度開始しました。
10	実際に多く利用される貸出資料はどのようなもので、どんな点に気をつけて選書されていますか？担当スタッフは何名ですか。 また幼稚園や学校への出張はありますか？	名古屋市大井様	ステーションによって需要が変わりますが(読者の年齢、生業、趣味、関心等による)、全体的には実用書(49-、59-、62-)が多く利用される傾向にあります。車載資料選定時の基本姿勢は、館と共通して、「課題解決や生活の質の向上に役立つ資料を幅広くそろえること」「読者の潜在的な興味・関心を掘り起こす蔵書構成」を心掛けています。運転手を除いて、車載資料を管理する担当者は6名です。留意事項は、日誌を通じて担当間の共有を図っています(質問No.4を併せてご参照ください)。
		富岡町古谷様	定期巡回コースに認定こども園があります。小中学校は、年3回、学校が指定した日時に伺っています。この場合の資料の返却は、学校図書館支援員の方が館の通常開館時に数日に分けて持参していただいています。
	貴重なお話をありがとうございました。	名古屋市大井様	病院、障害者施設、高齢者施設へ計7か所、3か月に1回巡回しています。在宅復帰後の利用についてはあいにく手元にデータがありません。施設への巡回はコロナ流行時はストップしていましたが、全施設で巡回を再開し、今は特別な感染対策はしていません。施設内でコロナが発生した時は、団体貸出した本を入れた箱を玄関先でやりとりする形で代替したことがあります。

	質問	回答者	回答
11	地域にある病院や児童養護施設、障害者施設、高齢者施設への巡回をされることがありますでしょうか。 在宅復帰後にまた図書館や移動図書館を、利用されれきっかけになるのかなと思っていて。 まだまだ、施設の場合、感染対策で難しいこともあるかとはおもいますが、エピソードがあればお聞きしたいです。	富岡町古谷様	特別養護老人ホーム、デイサービスセンターへ巡回を行っています。個人利用カードの登録にあたっては、希望する施設利用者の手続きを施設職員の方がまとめて代理申請いただく等のご配慮があり(委任状をご用意いただきました)、各々が気に入った本を選ぶ姿が見えます。施設で団体利用カードを登録いただき、施設内に図書館資料を常設しているステーションもあります。 本に関心を持っていないくても、図書館員とおしゃべりのなかから資料の要望につながることもありました。施設利用者だけでなく、施設職員による利用(業務に関する資料(壁面飾りやレクリエーションアイデア集、回想法に役立つ資料等)を含む)も見込めます。
12	古谷さんに質問です。最初はコンテナに積んで訪問を初めて、そこから自動車を購入するまでに至った経緯をおしえてください。外部からの声があったのか行政の方針だったのか。	富岡町古谷様	専用車の購入を決定したのは行政の方針ですが、前身のミニバンでの活動記録がこの決定に作用しました。以下に経緯をまとめます。 ●ミニバンでの活動開始(2018.8-2020.3) ・町の状況からアウトリーチ・サービスの可能性について検討 ・避難先の自治体に開設している町民交流サロンで、移動図書館の実施案について聞き取りを行い、利用が見込まれたので試験的に実施 ●専用車購入の方針(2018.11-) ・利用の状況、反響、統計等を取りまとめ、今後の展開について教育長を交えた協議を行う(町の復興計画と移動図書館事業の照合、他自治体の専用車による活動事例の紹介等を含む) ・町の復興の進捗にあわせて柔軟に町内外の町民に行政サービスを提供できるツールとして、専用車を購入する方針を決定 ●専用車を整備(2019.4-2020.2)
13	机に置いてあるミニカーは販売しているのですか？	TRC	ミニカーは、販売していません。 弊社で販売している軽自動車の移動図書館車「LiBOON」をご購入いただいた図書館へのプレゼント用として製作したものです。
14	古谷さんへの質問です、被災後の図書館のできることを模索しながらされているとおもいます。富岡町以外に広域に行かれていますが、今現在の近隣自治との役割分担、ハードな部分、予算、ソフトな面を教えてください。	富岡町古谷様	近隣自治体さまとの役割分担については、今後、情報交換会等の交流機会を通じて、可能性を探っていきたく考えています。以下に現時点の取り組みをまとめます。 ●双葉郡内での活動 東日本大震災以前は、郡内8町村中4町村(南から富岡町、大熊町、双葉町、浪江町)に公共図書館が所在していました。2022年には浪江町図書館が再開しています。 今も休館を余儀なくされている大熊町、双葉町に各町の協力をいただき移動図書館で図書館サービスを提供しています。[ハード、ソフト] ●郡外での活動 原子力災害被災自治体の住民は、放射性物質汚染の除染に関わる区域の線引きや賠償内容の差異等、様々な外的要因による人間関係の分断を体験しています。新たな分断を回避しながら、地域コミュニティを再建することが行政課題のひとつです。 当館は富岡町または郡内7町村に在住もしくは住民票がある方、在勤・在学している方が利用カードを発行して貸出サービスを利用できます。これは、移動図書館の巡回先にあっても適用されます。所属町村を越えて住民同士が安心して利用できる交流拠点として、図書館がひとつの選択肢になることを目指しています。[ソフト]
15	古谷さまに質問です。 大変距離のコースを含んだ定期巡回だと思いますが、運転手は専属の外部スタッフなどが対応しているのでしょうか？ 町村規模だと、そもそもの図書館スタッフの人数も少ないと思いますが、どのように移動図書館と本館の業務を両立させていますか？	富岡町古谷様	今(令和6)年度の当館の職員体制は町職員の司書2名、会計年度任用職員3名、業務委託先職員3名の計8名です。移動図書館に乗車する職員も、この中から配置しています。館には、1日あたり(出張職員を除いて)最低5名を配置できるよう、全図書館員の協力のもと勤務表作成時に調整を図っています。
16	古谷さんへの質問です。 移動図書館の1カ所の滞在時間はどのくらいですか？	富岡町古谷様	30-40分です。大半のステーションは30分間の滞在で、敷地が広い団地等は少し長めに設定しています。
17	首都圏に在住のため、移動図書館を体験したことがありません。 大井様のお話を聞いて、首都圏であっても図書館から様々な発信をする移動図書館として、キッチンカーのようなイメージで移動図書館が展開するのではないかと思いました。 とはいえ、運営スタッフの負担感などはいかがなものでしょうか？	名古屋市大井様	移動図書館を、キッチンカーのように気軽に、必要とされているところにどこへでも行くイメージに変えていければと思っています。 当市もイベント出張は始まったばかりで試行錯誤の連続ですが、定型化できる部分もあると感じており、できるだけ効率的に事業を展開したいと考えています。イベントに行った先で皆さんがとても喜んでくださるので、スタッフからはイベントに行くのは大好き、という言葉ももらっています。
18	移動図書館と近隣の書店との連携はどのようにはかれていますでしょうか？	名古屋市大井様 富岡町古谷様	近隣書店との連携は、本市として力を入れ始めたところです。今後、移動図書館を含めた活動についても検討していくことになるかと思っています。 被災後しばらくの間、町内および近隣町村に新刊を扱う書店は存在していませんでした。昨年末、いわゆる独立系書店が大熊町に開業しましたが、連携するには至っていません。
19	大井課長補佐 様への質問です 本日は貴重なお話をありがとうございました。 以下、4点について教えていただけると有り難いです。 1.大型車両2台から小型4台になり、コストが増加しないとの説明だったかと思いますが、何故コストが増加しないのか、理由を教えてください。 小型化する事で一台あたりのインシヤルは減るかも知れませんが台数が増えているので、そこまで差がでない気がします。また、ランニングは人員配置や車両維持管理コストが増えるようなイメージがあります。 2.利用者として高齢者が増えているようですが、資料では高齢者ニーズに対応した様な事例が見受けられなかったので、具体的な事例があれば教えてください。 3.直営ではないとの説明だったかと思いますが、直営のメリットやデメリット、直営でないメリットやデメリットを教えてください。 4.小型化により、資料数が減ると思いますが、どのように対応しているのでしょうか？	名古屋市大井様	1. 小型化によって以下の削減効果が生まれています。 ・1台当たりの車両製作費の大幅削減 ・大型車両の専用運転手の削減(スタッフが運転と窓口業務兼務) ・1台当たりの乗務人数削減 ・ガソリン代等の維持費削減 4台に増車しましたが、2台大型車両運行時のコストを大きく増やすことなくサービス向上を図っています。 2. 高齢者向けに、元気なシニア層を対象にした前向きで明るい資料を重点的に購入して特集棚として並べ、フレイル予防や健康寿命保持に図書館を役立てていただくという企画などを実施しています。 また、巡回先の近くにある高齢者施設に声をかけ、団体貸出の積極的利用を呼び掛けています。 3. 直営は、経験豊富な市職員によるきめ細かなサービスが可能であることが良い面ですが、柔軟な人員配置が難しい側面があります。 業務委託は、民間企業ならではの人材登用により、適材適所に人員が配置され、効率的に業務を行って頂いています。一方で、委託として定められた内容を超えることはできないため、マニュアルに沿った運営は可能ですが、新たな事業展開は難しい面があると思います。 4. 利用が多い巡回先には複数台で出動しています。また、積載資料の入替をこまめに行ったり、時節に合わせたテーマ展示を行うなどして、魅力的な本との出会いをできるだけ増やすように努めています。
20	大井様への質問です。 たくさんさんの移動図書館の可能性を感じる発表でした。 逆に、移動図書館の課題や限界はどのようなところにあると考えてらっしゃるのでしょうか？	名古屋市大井様	移動図書館は開館時間や積載冊数が限られているため、移動図書館だけで利用者の多様なニーズの全てを満たすことはできません。移動図書館の利用をきっかけにして、建物館や電子書籍などの利用につなげていくことも重要だと思います。
21	石川先生へ 移動図書館が本を届ける先はどのような場所が選ばれてきましたか。届ける先に時代に応じた変化がありますか？	石川先生	ご質問ありがとうございました。ステーションですが、かつて1950年代は、学校や役場、農協、寺院なども多かったといえます。もちろん公園や団地なども選ばれてきましたが、近年は、移動図書館のアウトリーチの役割が重要視され、福祉施設等へ巡回する傾向にあるといえます(もしくは、なかなかステーションの改廃は難しいがアウトリーチ的活動を展開したいという希望を持つ図書館が多いと推測します)。なお、移動図書館実態調査をしましたところ、小学校や幼稚園、高齢者が高い割合を示していました。

	質問	回答者	回答	
22	フォーラムの中でも石川先生が問題提起していましたが、移動図書館は利用率(人数)だけでは計れない可能性を有していると思いますが、財政当局等に説明しづらい面もあります。どのような論で説得や説明をしているのでしょうか。	名古屋市大井様 富岡町古谷様	移動図書館は読書推進や地域の活性化に有効であると説明し、図書館の中から地域に飛び出すことができる移動図書館ならではの特徴を示す数値(定期巡回のシニアの利用率、イベント出張時の登録率など)を参考として示しています。 館の運営に共通して苦慮する場面だと思っています。利用率向上のための努力に加えて、もうひとつ重要視されるのが利用者の声だと考えています。これを吸い上げ、財政当局との調整の場に届けています。 現在、当館の移動図書館事業は「避難先を継続して巡回する」という特殊性が評価されていますが、今後は行政内部に向けた図書館サービスも強化し、資料要求やレファレンス等の積み重ねを通して「図書館は役に立つ」「なくなると困る」と言ってもらえる地力を鍛えていかなければならないと感じています。	アンケートから
23	当自治体の移動図書館車は貸出機能のない配送車となっています。こういう機能の移動図書館にはどういった展望があるのでしょうか？	石川先生	配本車としてであっても、本を媒介に人と人(もしくは団体と団体)とのつながりを構築することで、次なる図書館活動への展開(利用案内の配布、出張おはなし会や特定テーマのセット貸出など)も可能と存じます。 なお今後は「移動図書館」の定義や範囲を図書館界としてある程度明確にしていく必要があると考えています。	

株式会社図書館流通センター